# 編　集　後　記

この１年間,国内のメディアは賑わっていた.郵政民営化法案の採決を巡って衆議院を解散し総選挙をしたら，自民党が安定多数を占めるに至り，小泉チルドレンなる議員が出現した．マンションの耐震偽装問題は，幸い犠牲者は出ていないが，先進国にはなさそうな話．若手の起業家ともてはやされたホリエモンの逮捕は，拝金主義が卑しいことだと教えてくれた．日替わりのニュースは昨日の大事なことを忘れさせる．お手軽（便利さ）と豊かさは危険と隣り合わせ．時代の流れと言ってしまえばそれまでだが，ちょっと待てという気になる．荒川浩先生の巻頭言もこの辺りをついています．

今回は111回，112回の発表論文と教育研修を掲載しました．教育研修の２題は何れも日常診療にすぐに役立つもので，昨年に続いて価値ある会誌になったと思います．山下教授の講演では，簡単に頚椎捻挫と診断している軽微な交通事故後の頚部症状は，正確には外傷性頚部症候群であることを知りました．夏井先生の講演も面白かった．術創のイソジン消毒はかえって創傷治癒を遅らせているということが確認できました．近々，抜糸前のシャワーが常識になることを期待します．一般演題では，軟部組織の修復を積極的に行っている札幌医大救急部の投稿が目立ちましたが，他の論文も今後の参考になる内容です．骨折を主とする外傷について発表し討論する本研究会は，ここ数年，若手の参加が増え，存亡の危機から脱しつつあります．今後も自らのレベルアップと良質な外傷治療のため，有意義な研究会と会誌発刊を継続できるよう会員諸氏のご協力をお願いします．それにしても原稿集めが大変でした．親の気持ち(苦労)子知らず．来年からは原稿送付時にCD－ROMを付ける，投稿者はアドレスを明記することをお願いします．学会活動，手術治療など，日本の医療環境はバブルでしたが，便利さの裏には罠もあることを胆に銘じ，じっくり仕事をしたいと思います．　　（佐久間隆）

編集係：八木知徳
佐藤栄修
佐久間隆
土田芳彦

北海道整形外科外傷研究会会誌　第22巻
平成18年３月31日
編集・発行　北海道整形外科外傷研究会
代　　表　荒　川　　浩
事　務　局　札幌市中央区南９条西10丁目
札幌中央病院　整形外科内
（昭和60年３月２日　創刊）
印　　刷　富士プリント株式会社